

令和2年度 小規模多機能型居宅介護 「サービス評価」 総括表

くろさき小規模多機能ホーム 野崎幸紀

令和3年2月26日

No.1

法人名	社会福祉法人 普代福祉会	代表者	大上 重信	法人・事業 所の特徴	・普代村の黒崎地区に立地し、旧小学校の一部を改装して開所した小規模な施設です、地域の方々の距離は近く、訪問・面会・差し入れ等も多く利用者様との馴染みも出ています。 ・施設理念である「あなたの笑顔のお手伝い」をモットーに職員一丸となってお世話させていただいております。					
事業所名	くろさき小規模多機能ホーム	管理者	野崎 幸紀							
出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1 人	2 人	5 人	0 人	1 人	1 人	0 人	4 人	0 人	14 人
項目	前回の改善計画			前回の改善計画に対する取り組み・結果			意見		今回の改善計画	
A. 事業所自己評価の確認	・職員同士が積極的にコミュニケーションをとることで、情報の共有に努める。			・今年度は新型コロナウイルスの影響で外部からの情報収集ができなかったが、できる範囲で収集に努め、職員へ口頭や回覧にて周知し共有できた。 ・苦情などの情報共有が不十分であり、対応が遅れたことで解決に困難が見られた。			・介護度の高い利用者のケアについて、個人の介護力に差がみられた。 ・利用者、家族との情報の共有が不十分で、苦情等への対応が遅れた。		・介護力（直接生活介助）の向上を図る。 ・チームワークを高める。	
B. 事業所のしつらえ・環境	・黒崎地区で実施している清掃活動の予定を確認し、参加する。			・新型コロナウイルスの影響により、できなかった。			・利用者と家族とで花を植えるようなことができればいいと思う。		・利用者、家族、職員が協力し、花や野菜を育てる。	
C. 事業所と地域のかかわり	・民生児童委員定例会議や黒崎地区自治会会議へ参加させていただき、事業所のPR活動を行う。 （地域ケア会議への出席は継続）			・PR活動の準備はできていたが、新型コロナウイルスの影響でできなかった。地域ケア会議は出席でき情報交換や共有することができた。			・施設の敷地内に東屋があったらいいなという意見があった。		・事業所のPR活動を行う。 （民生児童委員定例会議や黒崎地区自治会会議にて）	
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取り組み	・事業所単独の広報誌（年2回発行）を活用し、地域の方へ「相談できる場所」であることを周知する。			・広報誌を発行することはできたが、新型コロナウイルスの影響で、地域の方が施設への訪問ができなかった。			・地域住民より、スタッフに対し、「本当に親身になって年寄りに合わせ、大変であろう介護をしてくださる姿に、いつも家族は支えてもらっている」と感謝の言葉があった。		・事業所単独の広報誌（年2回発行）を活用し、地域の方へ「相談できる場所」であることを周知する。	

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
E. 運営推進会議を活かした取り組み	・利用者の日々の暮らしや事業所の取組等、運営推進会議での報告の際は写真を活用するなど、よりイメージしやすいように工夫する。	・前年度最後の会議での試みで写真を活用しての報告ができ、より充実感があった。	・委員より、直接利用者の声を聴きたいとの意見があった。	・利用者も参加してもらう会議を試みる。(利用者は輪番制で、2～3名程度)
F. 事業所の防災・災害対策	・役場の防災担当と連携し、普代村の防災訓練の際、事業所を福祉避難所として計画していただくよう事前に依頼し、それに基づいた訓練を計画、実施する。	・新型コロナウイルスの影響で計画が実行できなかったが、避難訓練2回と災害訓練は利用者と職員で実施できた。	・地域住民より、「施設に一度も入ったこともない人も地区の中にはおられると思いますので、『AEDはどんな時に必要か?』とか『事業所にありますので、万が一の時には使ってください』など、地区の皆さんにお知らせする事は大事かもしれませんね。」との意見があった。	・施設での災害に対するの取り組みや施設の設備などを地区の皆様に周知する。